

東京交通短期大学 同窓会報

第44号・令和3年7月発行

発行責任者	武田 浩一
編集長	岡 幸雄
編集	岩井 優太
	小澤 梓



「変革」について

同窓会長

第41回生 武田 浩一

前年度は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大防止のため同窓会としての活動も制限し、それにより同窓会報の編集会議が実施できず、やむなく会報の発行を中止致しました。会報が届くことを心待ちにされておられた会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

また、例年9月に実施される東交祭での同窓会活動も昨年は規模を縮小し、併せて行う同窓会総会はオンラインによるリモートにて実施となりました。そして例年実施している貸切列車などの同窓会イベントも中止せざるを得ず、参加を検討されていた方には申し訳なく思っております。

このような状況ではありますが、会報については編集作業の目途が立ち、ようやくこの度発行することが出来ました。

また、今までの取り組みでもありましたが、今後発行する同窓会報は短大のHPに掲載し「オンライン」で閲覧を出来るように致します。郵送で長年読まれていた会員の方は記事の中で流れを汲まれる事と思いますが、会員数の増加・送料の増額・WEB環境の普及などから、新しい形を採ることに致しました。

ここで「変革」という話をさせていただきますが、鉄道業界に身を置く私の視点から、

ホームドアやモバイル機器の導入、他社との意見交換から得た気づきなどで乗務員である私の周囲にも変革が見られます。

そして変革について回るのは慣例、慣習を見直す作業です。

交通業界は長い歴史を持つところで、「以前からこうだから」「上の人がこう言ったから」という作業を見かけます。それを見直す作業また見直せるキッカケが生まれていると感じております。

ただ、作業を見直すにあたり「安全」を疎かにして効率化を図るような変革をしてはなりません。変革を進めるにあたり、経験を持つベテランや安全を考慮した取決めを見直して、過去にあった事故の事例を引き出し、変えてはならない部分がある上で変え方を示唆する必要があります。

我々同窓会も、役員の持つあらゆるスキルを活用して、活動を少しずつ変える動きがあります。それについては皆様のご理解をお願い致します。

そこで、巻末に詳細を記載いたしました。編集ができる、また興味がある方を募集しております。近年新型コロナウイルス感染対策のため集会を行えなかった事もあり、新しい同窓会役員が入っていない状況です。少しでもお手伝い出来る方がいらっしましたら助かります。巻末のメールに連絡をお願いいたします。

(東急電鉄勤務)

令和2年度 東京交通短期大学事業報告



学長 松岡 弘樹

同窓会の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございます。

令和2年度の短大の事業報告をいたします。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の対応に追われた1年となりましたが、この状況の下で、主に下記の施策を講じることで、本学のさらなる発展に取り組みました。

(1) オンライン(遠隔)授業の導入

本学では、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、令和2年度の前期の授業は全面オンライン授業を導入し、後期は、オンライン授業を原則として、必修科目をはじめとする一部の科目について、オンライン授業と対面授業を併用したハイブリット型授業を実施しました。

オンライン授業を実施するにあたっては、通信環境が良好でない学生やパソコン、プリンターを持っていない学生も多く、通信環境の整備に多くの時間と労力を費やしましたが、大きなトラブルなしに前・後期の授業を終了することが出来ました。オンライン授業を実施すると、学生は一日中パソコンと対峙することになり、加えて、膨大な量の課題に取り組むため、学生の精神的、肉体的負担も増すこととなることから、ゼミ担当教員を通じて、学生のメンタル面でのサポート体制を強化しました。

また、担当する教員もオンライン授業は、初体験である教員がほとんどであったことから、マニュアルを作成し、専任の担当教員を非常勤教員に割り当てて、トラブル等に対応しました。

従来、授業の質の向上を図る上では、基本的に教授法の改善が質の向上に結びついていましたが、オンライン授業においては、それに加えて、各教員のパソコンのスキルの向上が求められることとなります。新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見られないことから、令和3年度の前期の授業は原則としてオンライン授業を実施しておりますが、令和2年度で培ったノウハウを生かして、オンライン授業の充実を図る予定です。

(2) カリキュラムの見直し

本学のカリキュラムについては、毎年カリキュラム委員会を中心に継続的な見直しを行っています。令和2年度は、本学のカリキュラム見直しの中期方針に基づき、①コミュニケーション能力向上のため、基礎ゼミにディベートを導入し、よりきめ細やかな一人一人の学生に応じた指導を強化する観点から、「基礎ゼミ」の数を増やす、②工学系の科目の充実の一環として、「鉄道工学」、「鉄道プログラミング」科目を新設する、③英語教育の充実の観点から、「交通英語入門」を新設し、「基礎英語」、「交通英語A/B」を能力別にクラス分けを行う、などの見直しを行いました。

(3) Web体験入学会の実施

本学の体験入学会は、例年対面で実施してきましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、初めてWeb体験入学会を実施しました。本学の体験入学会参加者は、地方在住のケースが多く、参加するには宿泊が伴うなど負担が大きい面がありますが、Web体験入学会の場合は、参加者が来校することなく、気軽に参加できることから、入試委員会を中心として、内容の見直しを行うことにより、令和3年度以降の実施も予定しております。

(4) 初年次教育の実施

短期大学は4年制大学に比べて、入学してから卒業までの期間が短く、入学後からの教育では時間的に不足することから、本学ではこれを補完するために入学前教育を導入してきました。当初は、AO入試合格者にのみ課題を課していたのを入学予定者全員に課し、平成28年度からは、外部業者と提携するなど段階的に入学前教育の内容を充実してきました。平成31年度は、新たに、コミュニケーション能力の向上等を目的として、初年次教育(入学前準備学習)を導入しましたが、一定の成果が認められたことから、令和2年度は、内容を見直した上で、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から、オンラインで1年次生全員に受講させました。

(5) 就職指導の強化

就職の支援については、これまで、キャリア支援担当教員の増員、キャリア関係科目の見直し、キャリア支援室の活用などの施策を講じてきましたが、令和2年度は、基礎ゼミ担当教員、キャリア支援担当教員、専門ゼミ担当教員による3ステップの面談・エントリーシート添削を全1年次生に対して実施することにより、学生の就職活動への支援をさらに充実させました。

また、進学に関しては、平成31年度は、個別指導を強化した結果、例年以上の成果を挙げることが出来ましたが、令和2年度も引き続き、指導内容を充実させた結果、一定の進学実績をあげることが出来ました。

(6) 安定的な財政構造の構築

本学の財政状況は、平成27年度までは一定数の学生を確保してきたことから、安定的に推移し、事業収支差額は黒字を維持してきました。平成28年度は入学者数の減少によって事業収入が減少しましたが、平成29年度は入学者数の回復によって事業収入が増加しました。平成30年度以降は、受け入れ可能な最大数の入学者を確保することが出来ており、令和2年度も安定的な経営体制の構築の観点から、継続して一定数の学生を確保する施策を講じた結果、大幅に志願者が増え、結果として受け入れ可能な最大数の入学者を確保することが出来ました。

新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えない状況が続いておりますが、一刻も早い事態の終息と皆様のご健康とご多幸を祈念させていただきます。

令和2年度学事報告

副学長兼学科長
高橋 真悟



東京交通短期大学・副学長兼学科長の高橋真悟です。
私から令和2年度の学事報告をさせていただきます。

1. 新・退任教職員について

【退任教員について】

令和2年度をもって、以下の先生方が退任されました。
(非常勤教員)

天野美穂子講師
泉健也講師
大田博樹講師
大槻忠史講師
小池知之講師
清夏実講師
田中美和講師
中島麻紀講師
新島尚子講師
町田直子講師

ご退任された先生方の、短大への尽力に感謝すると
共に、今後のご活躍をお祈りいたします。

【新任教員について】

令和3年度より、以下の先生方が新たに赴任されることになりました。

(専任教員)

佐古仁志専任講師

(非常勤教員)

佐久間貴士講師
田村和大講師
寺本直城講師
中村知誠講師
服部麻友美講師
山中一輝講師

各先生方の専門分野で培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思います。

2. 学校行事について

令和2年度の学校行事に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、前期は入学式と学外レクリエーションが中止となり、1年次および2年次オリエンテーションは遠隔(オンライン)での実施となりました。授業も本学では初めての全面遠隔(オンライン)授業となり、前期定期試験も遠隔にて実施いたしました。なお、オープンキャンパスについては、感染症対策を講じたうえで、8月と9月に対面にて実施いたしました。

後期は、例年と異なり、規模を縮小して入試広報目的で東交祭を実施いたしました(9月)。授業はゼミや一部の授業で対面授業を実施した他は、引き続き遠隔授業を実施することになりました。交通見学会(10月)は、感染症対策を講じたうえで屋形船を貸し切り、隅田川の周遊クルーズを実施いたしました。その他は遠隔にて(12月)専門ゼミ発表会・説明会、(1月)後期定期試験を実施し、3月は18日(木)に、池袋・ホテルメトロポリタンにて卒業式を挙行いたしました。また、体験入学会につきましては、概ね毎月1回遠隔(オンライン)で実施いたしました。なお、卒業式には、同窓会会長の武田浩一先生にご臨席いただき、ご祝辞を賜りました。同窓会役員の方の学校行事へのご協力に感謝申し上げます。

3. 時間割について

令和3年度の時間割と特別教養講座カリキュラムが別表のように決まりました。特別教養講座につきましては、引き続き、元同窓会会長の川島一郎先生、前同窓会会長の半沢貞夫先生、同窓会会長の武田浩一先生の3人の先生に講義を依頼しております。

令和2年度就職状況 及び令和3年度就職支援

キャリア支援室
栗原 圭二



同窓会の皆さま、本学キャリア支援室でお世話になっております栗原と申します。同窓会の皆さまには、就職支援の一環としての出張講義や後輩へのアドバイス等におきまして、大変お世話になっております。

令和2年度就職状況についてですが、卒業生83名に対して就職希望者76名であり、70名が就職先を確定し卒業いたしました。進学希望は4名であり四年制大学へ編入しております。

令和2年度は、JR4社に10名、東武グループに6名、京浜急行電鉄に5名、首都圏新都市鉄道に4名、東京都交通局協力会に8名など鉄道企業就職が49名となりました。また、前年度に就職していない企業への就職が目立ちました。IRいしかわ鉄道や福井県並行在来線準備株式会社等の地方の鉄道会社にも入社しております。今年度以降も鉄道会社に入りたい学生の思いを大事にしていきたいと思います。

令和3年度は、昨年に引き続き、就職活動スタートについては3月、選考開始は6月となっております。しかしながら昨年発生した新型コロナウイルス感染症の影響で、鉄道会社の多くが運輸職において採用人数を減らしております。そのような環境の中、昨年度からの新しい傾向として、保線や車両等の鉄道技術職を希望する学生も増えてきております。令和3年4月には東武エンジニアリングと小田急エンジニアリングに入社しました。

今年度は昨年度に引き続きキャリア系授業をさらに活用させていただきます。昨年から新型コロナウイルス感染症の影響で、企業への応募方法や選考方法に変化が生じてきました。インターネットを通しての応募(エントリー)による紙の履歴書・エントリーシートの廃止やWeb面接の実施等です。そのような採用方法の変化に対応できる学生を育成していきたいと考えております。

同窓会の皆様とは、就職支援の観点からもぜひ後輩に対していろいろな経験談をお話いただけると幸いに思っています。今年は9月後半までに大手企業の採用が決まってくと思いますので、東交祭などにお越しの際はぜひキャリア支援室にお立ち寄り、進路についての疑問質問をお気軽にしてください。また、ぜひ求人があればお声がけいただければ幸いです。

最後に、令和2年度の就職・進学状況について簡単に報告させていただきます。令和2年3月卒業生83名中、交通関連企業へ55名(昨年同時期59名)、一般企業15名(昨年同時期19名)、進学4名(昨年同時期1名)という状況でした。(4月30日現在)

鉄道関連の就職先は次の通りです。

【鉄道関連企業別内定者数】

東日本旅客鉄道 2名(昨年2名)
東海旅客鉄道 1名(昨年無)
北海道旅客鉄道 3名(昨年2名)
日本貨物鉄道 4名(昨年2名)
新幹線メンテナンス東海 1名(昨年2名)
東海交通事業 1名(昨年無)
JR東日本ステーションサービス 1名(昨年2名)
JR千葉鉄道サービス 1名(昨年無)
東京地下鉄 1名(昨年1名)
東武ステーションサービス 4名(昨年3名)
東武エンジニアリング 2名(昨年3名)
東急電鉄 1名(昨年2名)
西武鉄道 1名(昨年1名)
京浜急行電鉄 5名(昨年4名)
京成電鉄 1名(昨年1名)
首都圏新都市鉄道 4名(昨年1名)
小田急エンジニアリング 1名(昨年1名)
横浜市交通局 1名(昨年無)
神奈川臨海鉄道 2名(昨年2名)
IRいしかわ鉄道 1名(昨年無)
福井県並行在来線準備株式会社 1名(昨年無)
高松琴平電気鉄道 1名(昨年無)
小田商會 1名(昨年無)
東京都営交通協力会 8名(昨年6名)

令和3年度入試報告

入試委員長 濱 雄亮



令和3年度入学者を選抜した入試(令和2年度実施)は、志願者数のべ174名、合格者数105名、入学者数103名でした。入学者は定員の80名を23名上回り、受け入れ可能な人数の上限(定員の1.3倍未満)まで確保することができました。昨年度と比べると、志願者は28名の大幅増加、入学手続き者は同数となりました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

近年にない多数の志願者数の応募と上限いっぱいの入学者数を確保できた要因は複数考えられますが、とくに以下の2つが大きな要因だと考えられます。

第1に、コロナ禍に際しても、万全の安全対策と受験生のチャンス維持に努めたことです。体験入学会は、オンラインで6回、オンラインと対面の両方で4回実施いたしました。オープンキャンパスは、2回ともオンラインと対面の両方で実施いたしました。オンライン開催とは、YouTubeに講義や説明会の動画を公開することで、多くの視聴者を得ました。対面開催とした回においては、通例と異なり、保護者の入場を謝絶しました。その一方で、広報・進路委員会の協力のもと、保護者向けセミナーを別日程で対面開催いたしました。対面開催の際には、エントランスでの体温測定や手指消毒を実施することや、氏名や連絡先の登録によって事後にも連絡が取れる状況を確認することなど、感染症対策に万全を期しました。入試は、感染者が急増した1月に実施予定であった第5期総合型選抜を第6期に振り替えたものの、全ての回を実施し受験生の期待に応えました。体温測定や手指消毒の徹底、体調不良者の次回以降の入試への振替制度の提供など、受験生と教職員双方の安全・安心を確保する策を講じました。なお、第5-7期総合型選抜(2月・3月実施)は、オンラインでの実施としました。IT委員会や事務局の協力を得て、通常通り厳密に実施し問題は生じませんでしたし、オンライン入試を受けて入学した学生も、現在通常通り学習に取り組んでいます。状況が不確かな現状においてオンライン入試の経験を積むことが出来たことは、本学にとってむしろ財産であるとさえ言えます。

第2に、90%台後半という高い水準の就職率を維持していることです。受験生はもとより、保護者や高校教員にとっても、就職率は重要課題です。進路委員会教員を中心に教職員が懸命に支えていることはもとより、同窓会の皆さまのご活躍が本学への評価につながっているものと存じます。

他にも、編入指導の充実・実績の向上や、新校舎の竣工など、教職員・学園が一体となって学生のために活動していることも、志願者増につながっているものと考えます。現在、日本の短期大学志願者数は減少し続けています。日本私立学校振興・共済事業団によると、令和2年度に定員割れを起こしている短期大学は215校にのぼり、短期大学全体の70%を超えています。こうした状況の中、本学は定員の120%以上の入学者を連続して確保し続けております。全国津々浦々での同窓会の皆さまのご活躍が、本学の情報の検索やイベント参加を後押ししているものと存じます。御礼申し上げます。

本学は、令和3年5月現在、前期の体験入学会はオンライン開催、オープンキャンパスは対面実施を予定しています。皆さまにおかれましては、交通・観光の世界に興味をお持ちの高校生がお近くにいらっしゃいましたら、ぜひ本学の情報の検索をすすめてくださいますようお願いいたします。皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

2021年度特別教養講座日程

前期 (土)13:10~14:40

開講日	講演者	2021年度所属・役職	2021年度テーマ
2021年4月10日	佐藤 美知男	公益財団法人 交通協力会 鉄道史料調査センター研究員	鉄道と冬—水雪害・スキー・スケート
2021年4月17日	萩原 俊夫	元東京急行電鉄株式会社 営業本部営業推進部上席主査	鉄道員としての毎日
2021年4月24日	石上 七緒	松蔭大学コミュニケーション文化学部長 教育開発センター長	古代の交通と信仰
2021年5月1日	平野 琢	九州大学大学院大学院 経済学研究院産業マネジメント部門 講師	鉄道事故の防止とリスクマネジメント
2021年5月15日	大坂 直樹	株式会社 東洋経済新報社 記者	鉄道を通じて経済、社会を学ぶ
2021年5月22日	齋藤 順治	株式会社JR東日本ステーションサービス 顧問	JR東日本グループの現況
2021年5月29日	平柳 聡	造景師(情景モデル)	模型で表現する生活に密着する鉄道の魅力
2021年6月5日	西上 逸揮	IY Railroad Consulting代表、鉄道アナリスト	「世界一を誇る日本の鉄道を支える安全の基礎」 ～大事故を防ぐための、未来への鍵～
2021年6月12日	亀山 直人	日本貨物鉄道株式会社関東支社副支社長	貨物鉄道輸送の現状
2021年6月19日	平田 一彦	株式会社 東武カードビジネス 常勤監査役	鉄道事業を巡る経営環境の変化について
2021年6月26日	井上 治	拓殖大学政経学部長・教授	インドネシアの鉄道事情
2021年7月3日	武田 浩一	本学同窓会会長	四半世紀の鉄道員生活を振り返って
2021年7月10日	野尻 俊明	流通経済大学学長	貨物自動車運送事業規制の変遷
2021年7月24日	八耳 俊文	前青山学院女子短期大学学長	渋谷駅の発展とまちの歴史

後期 (土)13:10~14:40

2021年10月2日	尾崎 正明	東急株式会社内部統制室主幹	鉄道運転士に求められるもの
2021年10月9日	鹿住 良人	株式会社 かすみ交通 代表取締役	技術革新がもたらすタクシー業界の変化
2021年10月16日	半沢 貞夫	元交通新聞社出版編集部長・本学同窓会元会長	日本の鉄道の礎を築いた人びと
2021年10月23日	花上 嘉成	元東武博物館館長	近年の鉄道輸送について
2021年10月30日	小林 秀年	東洋大学法学部教授	社会の変容と民法の改正
2021年11月6日	岡本 久	本学元学科学長・本学名誉教授	交通市場を取り巻く環境変化と今後の課題
2021年11月13日	川島 一郎	元川崎駅長・本学同窓会元会長	元気なJR東日本グループ
2021年11月20日	大島 功	株式会社ジェイアール東日本都市開発 総務部担当部長	JR東日本の現状と企業が求める社会人について
2021年11月27日	岩武 光宏	近現代史研究家	実学としての近現代史
2021年12月4日	新野 誠一	株式会社NHKグローバルメディアサービス 報道番組部チーフプロデューサー	国際共同制作番組で学ぶ鉄道の安全
2021年12月11日	田中 宏司	本学元学長・本学名誉教授	コンプライアンス経営からSDGsへの発展 ～企業人になるための心構え～
2021年12月18日	吉田 一宏	東武鉄道株式会社資産管理部課長	鉄道事業における資産活用について
2022年1月8日	前田 忍	公益財団法人 浜松浜名湖ツーリズムビューロー 理事・事業本部長	鉄道事業と地域の活性化
2022年1月15日	米山 淳一	公益社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事	鉄道遺産を生かしたまちづくりと観光

2021年度 時間割

1 年 次		2021年度 時間割			
		1時間 13:10~14:40	2時間 14:50~16:20	3時間 16:30~18:00	4時間 18:10~19:40
		情報リテラシーII A/B (田村)	情報リテラシーIII A/B (佐久間)	情報リテラシーI A/B (佐古)	情報リテラシーIV A/B (佐古)
月			基礎ゼミ I (高)	基礎ゼミ IV (高)	
			基礎ゼミ II (田島)	基礎ゼミ V (小宮)	
			基礎ゼミ III (佐古)	基礎ゼミ VI (田島)	
				交通英語入門II (後) (福山)	
火		観光開拓法概論(前集) (手塚)	観光文化実習論(前) (手塚)	基礎英語(前) (田島)	観光地理(前) (有馬)
		キャリア形成論(後) (栗原)	現代社会論(後) (福山)	基礎英語(後) (福山)	経営学A/B (寺本)
水		文章表現技術I A/B (服部)	文章表現技術II A/B (服部)	法学A/B (松岡)	ビジネスマナー(前) (竹内)
			マーケティング論(前) (井戸)	統計学A/B (真中)	鉄道工学(後) (城本)
					心理学A/B (栗原)
木		キャリアデザイン(前) (栗原)	自己表現法(前) (田島)	哲学A/B (関)	経営学A/B (高橋)
			企業研究(後) (田島)	文学A/B (服部)	
金		観光開拓法概論(前集) (手塚)	旅行実習論(前) (手塚)	政治経済(前) (福山)	歴史学A/B (高)
		鉄道基礎(後) (藤井)	鉄道基礎(後) (藤井)	交通事業論(後) (山中)	体育実習A/B (藤城)
土		特別教養講座A/B (高橋)	観光学概論A/B (高橋)	実務基礎能力訓練I A/B (真中)	交通概論A/B (藤井)
		自然科学概論A/B (中村)	環境科学概論A/B (中村)	実務基礎能力訓練II A/B (佐古)	
				実務基礎能力訓練III A/B (田島)	
				実務基礎能力訓練IV A/B (田島)	

2021年度 時間割

2 年 次		2021年度 時間割			
		1時間 13:10~14:40	2時間 14:50~16:20	3時間 16:30~18:00	4時間 18:10~19:40
				鉄道論(後) (中村)	
月					
火		中国語A/B (山口)	交通英語 A/B (田島)	経営概論(前) (寺本)	鉄道システム論(前) (城本)
				経営概論(後) (寺本)	ホスピタリティ論(後) (藤田)
水		情報科学概論(前) (小宮)	交通史(前) (真中)	航空論(前) (栗田)	ビジネス倫理(前) (村松)
		海運論(後) (栗田)	交通概論(後) (真中)	鉄道経済学(後) (栗田)	鉄道プログラミング (小宮)
木		都市・地域交通論ゼミ (栗田)	物産交通論(前) (中村)	交通経済学(前) (栗田)	交通論ゼミ (藤井)
		経済交通論ゼミ (高橋)	世界の鉄道研究(後) (藤井)	観光学概論(後) (田島)	鉄道ゼミ (高)
		労働法ゼミ (田島)			交通情報論ゼミ (小宮)
金		キャリア情報論(前) (栗原)	交通英語 A/B (福山)	交通政策論(前) (藤井)	
		情報システム論(後) (小宮)		鉄道史(後) (高)	
土			海運論(前) (相原)	自動車交通論(前) (藤田)	
			交通概論(後) (笠井)	観光プランニング実践(後) (手塚)	

— 会 員 解 放 区 —

都電追懷

第15回生 半沢 貞夫



伊豆急、天竜浜名湖、箱根登山、銚子電鉄と恒例の「貸切列車の旅」、令和元年度は「都電・荒川線」。

各回企画にご尽力頂く幹事、委員の皆さんに感謝申し上げ、交通短大同窓会らしい問題意識を提起するイベントに、幅広く会員の皆さんを誘いたい。

都電と聞いて、「運転論」の柴内先生（禎三氏、国鉄運転課長等を歴任）が浮かぶ。（三河島事故を絡め）ATSシステムの解説に、ぎりぎり接近運転できる鉄道と、都電を切り出し説明された。また「陸運論」（浅野裕司助教授）は、都市交通の講義で路面電車の撤去、存続問題を神戸市の高架市電案を例に、正確・敏速・低料金・大量輸送と、公害・美観を考慮した交通機関が必要と説いた。

◇ ◇

昭和43年、短大を卒業し入社した会社は丸の内にあった。半ドンの日曜日は決まってビル内の食堂でビールと生姜焼き定食が恒例、勘定は会社持ちだった。

心持ちいい気分での帰りは、何故か日比谷の交差点から都電に乗った。渋谷・常盤松の寮に近い青山車庫まで行き、青学の横を通って戻るのである。オリンピック後も都電は相当系統が走っていた、にも拘らず乗った記憶はそれ以外ない。仕事で東京駅前の国鉄本社ならいざ知らず、少々距離のあった霞が関の運輸省にも、都電を横目に徒歩で日比谷公園を抜けて通った。

◇ ◇

「京都の人たちは普段着で出掛けるが、東京は余所行きの姿で」は、仕事で四方山ご教示頂いた朝日新聞・岡並木さんの話。昭和46年頃、京都は市電でどこでも気軽に歩けたが、国電・地下鉄の高速鉄道となった東京は、ちょっとした外出にも気構え、心構えが。

昭和30年代、海外渡航の厳しい当時、行先はロンドン・ニューヨーク・ワシントン・パリに集中、その当りから「市電の撤去は世界の大勢」と、他の都市ではまだまだ稼働中にも拘らずに判断。東京の路面電車の捨て方も、安易で乱暴だと嘆かれた姿を思い出す。

◇ ◇

その昔、「東京の名物満員電車 いつまで待っても乗れやしねえ 乗るにや喧嘩腰いのち掛け …ラメチャンタラギチョンデパイノパイノパイ…♪」と『東京節』に唄われた民衆の足は、味噌、豆腐くらい生活そのもの。小説『坊ちゃん』では、四国・松山の中学校であれこれ騒動に巻き込まれたのち東京に舞い戻り、街鉄の技手となる。月給40円の教師から25円への転職は階級的下降だろうが。当時の街鉄は、賃上げ闘争が年度行事で、喧嘩早い坊ちゃんはどうかだろうか。『吾輩は猫である』でも、苦沙弥先生に「君、電気鉄道に乗ったか」と問う、「なんぼ田舎者でも…是でも街鉄を60株持ってるよ」と応える件がある。漱石が鉄道好きだったか、私は知らない。

◇ ◇

数日後、再び荒川線に乗る機会があった。電車は、同様老若男女ほど良い込み具合に、市民生活の血流さえ感じられ、生きた交通を痛感する。

「都電の対抗は自転車」とは、車庫でご説明頂いた交通局の方の弁、私は「利用者・公衆」と応えたい。利用者の生活に密着した本来の交通の姿、写真に見る昔日の都電風景の現代版の一端を見た思いがした。

（元交通新聞サービス勤務）

宇都宮線石橋

第45回生 竹下 光



小さい頃、家族旅行で行った自宅のある牛久から日光に行く時、宇都宮線の石橋はよく通ってました。現在は「下野市」ですが、当時は「石橋市」でした。石橋は今でも私にとって馴染みがある街であります。

最近、私は石橋にある「下野星宮神社」によく参拝に行きます。というのは今、私がイチオシで応援していて、昨年大ブレイクして活躍した楽天イーグルス・石橋良太投手のさらなる飛躍と必勝を祈願して、神社のある「石橋」と楽天の「石橋」をかけて『石橋つながり』で参拝に行っています。石橋から下野星宮神社まで片道約20分、往復で約1時間のウォーキングはなかなかいい運動になります。栃木名物のかんぴょう畑と日光連山を見ながらのウォーキングはとても気持ちがいいです。

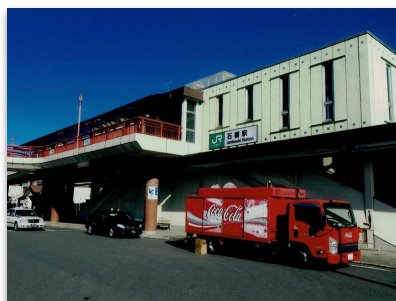
石橋はもともと「石橋宿」という日光街道の宿場町です。「石橋町」が合併で「下野市」になった当初は下野市の中心地は石橋だったのですが、市の中心が小金井、自治医大の方に移ってしまい、石橋は寂しくなる一方に。

石橋駅は以前は特急、快速列車の停車駅でしたし、日産の栃木工場の最寄り駅でもあるので、石橋そのものにもう少し活気があってもいいと思うのですが。

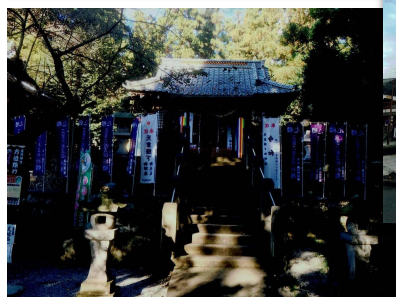
栃木の観光地といえば日光、鬼怒川、那須、足利がメジャーなところですが。

石橋にも先程述べた「下野星宮神社」やドイツのグリムの建物がある「グリムの星いしばし」(冬になるとイルミネーションが開催される)、あとは「石橋あやめ園」といった観光地があります。これらの観光地を活用して石橋に観光地を誘致する等して、下野市は石橋に力を入れて欲しいと思います。

(東日本旅客鉄道株式会社 土浦駅勤務)



↑: 石橋駅舎
↓: 石橋駅前のグリム時計
◇: 下野星宮神社



横浜市営交通 100周年

第61回生 及川 徹也



交通短大を卒業して7年半が経ちました。2014年4月に横浜市交通局に入局し、上大岡駅で1年間駅員を経験し、運転士登用試験に合格した後、約10ヶ月間の見習期間を経て、2016年2月に運転士になり5年半が過ぎました。

近年では横浜市交通局にも交通短大の同窓生が増えており現在は10名程の同窓生がいます。新卒や他社からの転職を問わず若い同窓生が多く、新型コロナウイルスが流行する以前には横浜市交通局で働いている交通短大の同窓生で飲み会をするなど、他の鉄道会社と比べても同窓生の間で程よい距離感を保てるのが特徴だと思います。

横浜市交通局は今年4月1日に100周年を迎えました。1921年に路面電車を運行していた横浜電気鉄道株式会社を買収したことに始まり、1928年に市営バス事業を開始しました。1972年に上大岡～伊勢佐木長者町で地下鉄が開業し、延伸を続けながらのちにブルーラインが路線の愛称となりました。2008年には新たに日吉～中山でグリーンラインが開業しました。

横浜市は約380万人が住んでおり、年間約3500万人の観光客が訪れ、そのうち8割以上が日帰りで観光しています。横浜観光の定番は、横浜ランドマークタワー、赤レンガ倉庫、山下公園、中華街、元町、山手洋館、港の見える丘公園など、みなとみらいエリアや元町・中華街エリアが中心となっています。しかし、実際に歩いて観光してみると意外に広くて歩き疲れてしまいます。

横浜の主要な観光地を巡るように走るのが横浜市営バスのベイサイドブルー、あかいくつ、ピアラインなどです。なかでもベイサイドブルーは2020年7月に運行を開始した連接バスで、横浜駅から乗り換えずにみなとみらい・山下・中華街・赤レンガなどの有名スポットにアクセスできます。また、2か所での転回で運転手のハンドル捌きと車体特有の動きが見どころです。

横浜市交通局では、グリーンラインでは6両化事業が行われ、ブルーラインの新百合ヶ丘延伸が事業化されるなど、横浜の交通事情も少しずつ進化を遂げています。ぜひ機会があれば横浜に足を運んでいただければと思います。

(横浜市交通局 上永谷乗務管理所勤務)

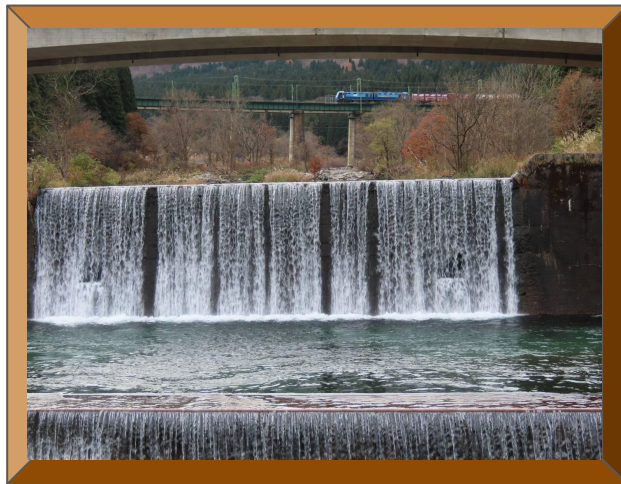
* とうこう写真館 *

同窓会報カラー化による新コーナー！「東交」OBによる写真「投稿」コーナーです！

13回生 川島一郎
「トランスイート四季島号が通る休日」



13回生 川島一郎
「上越線ループを行くコンテナ列車」



41回生 中澤淳
「台中MRT」



41回生 中澤淳
「台湾鐵路管理局 EMU500型
しなの鉄道ラッピング編成」



41回生 中澤淳
「雲林県虎尾 サトウキビ列車」



<写真募集>

新コーナー「とうこう写真館」を飾る素敵な写真を募集します！

- ①テーマ：「自由」※鉄道写真でなくてもOKです。
- ②寄稿の方法：P. 12をご覧ください。
- ③ガイドライン
 - ・画像のファイル名のどこかに投稿者の名前を入れて下さい。(例：20210101山田太郎.jpg)
 - ・被写体の顔が認識できる写真は投稿者本人の責任において掲載の許可を取ってください。
 - ・P. 12記載の文章・写真共通ガイドラインも必ずお読みください。
- ④締切 2022年4月末日

旧6号館について

2021年1月頃、旧6号館や隣接する旧シミュレーター館が取り壊されました。現在では、丸の内線500形685号を残し、更地となっております。本ページでは在りし日の旧6号館の姿、取り壊し前後の様子をご紹介します。

在りし日の旧6号館



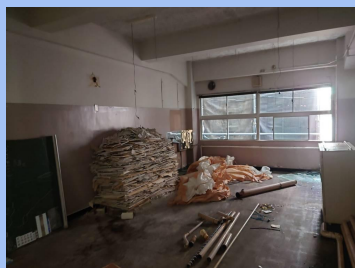
旧運転シミュレーター館



旧6号館での最後の東交祭
(平成27年)



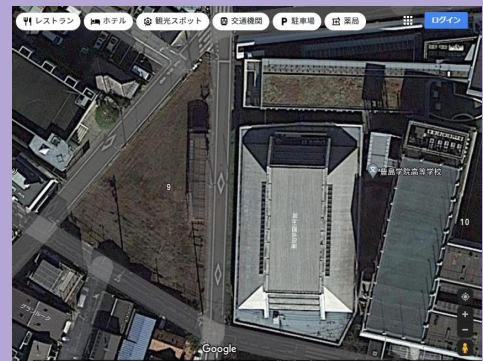
取り壊し前の様子



取り壊し後の様子



航空写真にもしっかりと写っていますー



会計報告書(2020年度)

(2020年4月1日～2021年3月31日)

2021年4月1日
東京交通短期大学 同窓会

収入の部				支出の部			
項目	区分	金額	摘要	項目	区分	金額	摘要
繰越金	A	18,025 円		集会費	イ	31,586 円	学校説明会集会費
							卒業式準備集会費
会費	B	460,000 円	5,000円×92名	会報費	ロ	0 円	
臨時会費	C	0 円		通信費	ハ	10,370 円	学校説明会スタッフ交通費
							卒業生記念品送料
寄付金	D	2,100 円	同窓会生より	渉外費	ニ	70,411 円	卒業生記念品
雑収入	E	3 円	利息	会議費	ホ	11,935 円	幹事会、会計作業
				雑費	ヘ	7,574 円	除菌用品、プリンタインク
				繰越金	ト	348,252 円	
収入計		480,128 円		支出計		480,128 円	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

2021年4月1日 会計監査 堀 丈 夫 (印) 会計監査 八 木 橋 孝 尚 (印)

個人情報の取り扱いについて(概要)

2011年3月8日
東京交通短期大学同窓会

1. 法令その他規範の遵守、個人情報の保護及び取り扱い
 2. 適正な手段による個人情報の取得、利用又は提供
 3. 個人情報の訂正・削除・開示等の対応
 4. 個人情報の更新
 5. 個人情報のセキュリティ
 6. 個人情報の今後の取り組みについて
- ※詳しくは、会報42号の最終頁をご覧ください。

同窓会からのお知らせ

【短大同窓会 役員募集について】

今回会報を作成するにあたり、マンパワーの不足が課題となりました。また、貸切列車企画や東交祭のお手伝いもぜひ協力をいただきたいと思います。

そこで、同窓会活動の主幹となる役員をひろく募集します。遠方などにいらしても、出来る場合がございます。

編集・催事・意見要望の対応などを学ぶ機会が、数多くあります。

まずは定例会に参加していただければと思います。 会長 武田浩一

【公式LINEアカウント開設】

同窓会ではこの度「公式ラインアカウント」を作成いたしました。

東交祭や貸切列車、定期的に行う会合「定例会」のお知らせを配信しております。

「@733mbeib」で検索いただくか、右のQRコードを読み込んで登録してください。



【登録住所の変更・問合せについて】

住所、氏名の変更等についての連絡は、同窓会のメールアドレス

「tokuob@gmail.com」へお知らせ下さい。変更等の対応を行います。

※学校側の負担軽減の為、連絡は原則としてメールをご利用ください。

メールの利用が困難な場合は、巻末の住所宛にはがき又は封書にてご連絡ください。

※なお会員本人死亡時のご遺族からの連絡は電話でも受け付けます。(短大事務局:03-3971-4704)

【重要:次号以降の会報について】

次号より、会報は短大ホームページ上にてオンライン発行いたします。

公開開始日については、メール、公式ラインまたは短大HPにてお伝えします。

E-mail:tokuob@gmail.com 公式Line:@733mbeib 短大HP:https://toko.hosho.ac.jp/

次号発行は2022年夏頃を予定しております。

紙媒体での送付を希望される方は上記「登録住所の変更」の方法に準じてお知らせ下さい。

【会員解放区・投稿記事について】

次号より会報はインターネット上で公開されるため、寄稿される内容については、会員および会員が所属する会社・団体や周囲の方に対して、公開可能な範囲の情報を記載していただくようお願いします。
お勤め先がソーシャルメディアポリシーを定めている場合、それに従って寄稿してください。
同窓会会員の個人情報の取り扱いについては「個人情報の保護に関する法律」に基づき保護に努めます。

【会員解放区・投稿募集について】

会員解放区の投稿を募集します。次号よりフルカラーになるため、文章の他に**写真も募集します**。

①テーマ

＜文章＞「自由」または「短大旧6号館の思い出」または「我が青春の旧6号館」

＜写真＞「自由」 ※鉄道写真でなくてもOKです。

②寄稿の方法

下記の1または2いずれかの方法にて、**デジタルデータでの提出をお願いします**。

1. 同窓会メールアドレス(toukouob@gmail.com)へ送付。

2. 返却不要のメディア(CD-RやFDなど)にコピーして郵送。※送付先は巻末をご参照下さい。

③文章・写真共通ガイドライン(写真投稿ガイドラインは、P.9も合わせてご参照ください。)

・タイトルに続いて氏名、卒回、勤務先(引退した方は元の職場)を記入してください。写真の場合は、テキストデータにて別途添付して下さい。

・顔写真を添付してください。※自画像でもOKです。

・「校正」はしますが「校閲」はしません。

→明らかな誤字脱字は編集部で修正しますが、内容についての保証は投稿者の責任です。

・投稿者の職場紹介から逸脱した特定の商品・サービスの広告および宗教団体、政治団体等への勧誘や、いわゆるステルスマーケティングと判断した記事は掲載を見送ります。その際投稿者への通知は行いません。

→「●●を売っています」程度ならOKですが「●●を特別価格△△円で売ります」はNGです。

・広告を掲載したい場合、別途有料にて承ります。料金等は打合せの上決定します。

・会報発行後に投稿者に起因するトラブルが発生し会報データの修正等を実施した場合、作業時間1時間あたり3万円の作業料を投稿者へ請求します。この作業料は寄付金として会計に繰り入れます。なお当同窓会は認定NPO法人や公益社団法人等に該当しないため、寄付金控除は受けられません。

・各種法令及び条例等に違反した内容や、公序良俗に反する内容は掲載しません。

→他人を盗撮した写真や鉄道敷地内および他人の私有地に無断で立入って撮影した写真はNGです。条件の悪さはワザでカバー。

・当然ですが法人や個人への誹謗中傷は禁止です。自分の所属の職場批判は他所でどうぞ。

④締切 2022年4月末日

【令和2年度総会の報告と令和3年度の総会について】

同窓会総会は例年、東交祭初日のあとに実施をしておりますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインにより開催をいたしました。

今年度につきましても、東交祭の開催と感染状況を鑑みながら開催方法を検討いたします。

詳しくは短大HPまたはメールアドレスまでご確認くださいますようお願いいたします。



↑ 令和2年同窓会総会の様子

編集後記

・次回会員解放区のテーマ「短大旧校舎の思い出」って何？と思う方もいらっしゃるかもしれません。実はいつの間にか旧校舎(6号館)が解体されていました。前号で新校舎竣工はお知らせしましたが、その時点では旧校舎は物置として利用するという話でした。学園側で何らかの計画変更があったのでしょうか。そこで、会員の皆さんから旧校舎を偲んで思い出話を募集します。青春時代の思い出や、今だから話せる時効の話、はたまた人ならざるものを見たという話でも構いません。後輩たちに旧校舎のかつての姿を伝えて下さい。(編集A)

・前号の予告通り、紙面を大幅にリニューアルしました。次号からの完全オンライン配布化を見据え、デジタルデバイス、特にスマートフォンでも読みやすい横書きへ変更した他、編集作業を外注から同窓会役員によるDTPへ切り替え、制作費用の圧縮と編集の迅速化を実現しています。なおデザイン、レイアウト等にご意見がありましたらお気軽に同窓会までお知らせください。次号から編集していただきます。(編集B)